

3年間の計画的なパフォーマンステスト実施による「使える英語力」の育成 ～授業内容を活用したパフォーマンステスト及びスピーキングの段階的指導事例の開発～

令和6年2月8日
教育庁指導部

I 研究主題設定の理由

1 現状・課題及び「使える英語力」

「東京グローバル人材育成指針（令和4年3月）」では、グローバル人材育成のための4つのTARGETのうちの一つに「主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成」を挙げ、以下の2つの事項も示されている。

- 多様な言語や文化、習慣をもつ人々と共に生きていくためには、英語等の外国語を情報伝達や課題解決において活用する力や、他者の意見を尊重しながら、自分の意図することを相手にしっかり伝えようとする態度等、他者と実質的かつ双方向的なコミュニケーションができる力が必要となっている。
 - グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。
- このような中、「使える英語力」とは、目的や場面状況などに応じて、外国の方々とコミュニケーションを図ることができることと考え、この力を段階的に伸ばしていくことが高等学校の役割とした。

2 研究内容

「使える英語力」を伸ばしていくためには、授業の中で「話すこと」に関するパフォーマンステストを実施することが効果的であると考え。しかし、高等学校では、スピーキングテストの実施状況が、学年が進むにつれ下がっていく傾向がある（令和4年度「公立高等学校における英語教育実施状況調査」）。「使える英語力」の育成に向け、年間指導計画の中でスピーキングに係るパフォーマンステストを効果的に計画することが大切であり、そのために、本研究では、卒業までを見据えて英語科全体で計画するための作成手順を示したい。

また、パフォーマンステストの全体像を可視化することで学年ごとの指導目標とテストの分類に応じた指導計画の作成や、段階的なスピーキング指導等の授業改善につなげることができると考えた。

II 研究内容と開発した指導資料

1 パフォーマンステストの分類

「声に出す」	音読、レシテーション等
「伝える」	スピーチ、スキット、プレゼンテーション等
「やり取りする」	インタビュー、ディベート（ピンポン、ミニなど）、ディスカッション等

2 3年間のパフォーマンステスト計画の作成のステップ例

以下の手順で3年間を見通した計画を作成し、所属校で実践した。



3 2を踏まえた3年間のパフォーマンステスト計画例

(1) プロジェクト等を活用した計画

- ア 1年次の生徒の現状把握
 - ・ESAT-J：概ねAレベル
 - ・「読むこと」と「話すこと」の差が大きい。
- イ 3年後の「使える英語」の目標
 - ・国内外の社会問題について意見を伝え合うことができる。

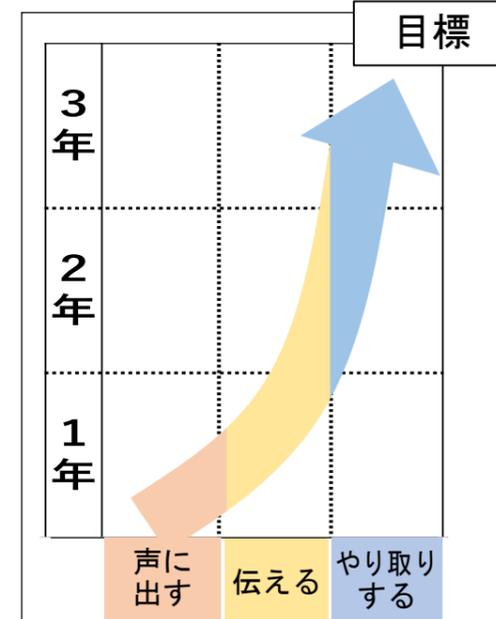
	声に出す	伝える	やり取りする
3年			模擬国連プロジェクト
2年		スピーチ(300語)+質疑応答	生徒が先生プロジェクト
海外修学旅行	グラフを用いたテーマ発表	国際交流用プレゼンテーション	ディスカッション(社会的な話題)
1年	暗唱コンテスト(200語)	スピーチ(200語)+質疑応答	生徒が先生プロジェクト
TGG	音読テスト(100語)+質疑応答		

(2) 音読を中心とした計画

- ア 1年次の生徒の現状把握
 - ・ESAT-J：概ねDレベル
 - ・英単語を発音することが難しい生徒が多い。
- イ 3年後の「使える英語」の目標
 - ・日常的话题について意見を伝え合うことができる。

	声に出す	伝える	やり取りする
3年			ミニディベート(日常的话题)
海外の学校とオンライン交流		スピーチ(80語)+質疑応答	
		音読テスト(60語)+質疑応答	
2年		スピーチ(50語)+質疑応答	
TGG		音読テスト(50語)+質疑応答	
1年		音読テスト(50語)+内容理解	
	音読テスト(40語)		

目標達成に向けて3年間のパフォーマンステスト計画のイメージ図



4 授業内容を活用したパフォーマンステストの具体的な事例

(1) 声に出す【音読】目標：表現力豊かに英文を音読することができる。

授業内の特徴的な取組	パフォーマンステスト概要	JET の活用
①継続した発音記号の読み方指導 (日本語の発音と異なる発音に特化)	①教科書の一部分(当日提示)を制限時間内に音読。 (約45単語、25秒)	①授業内で発音や音読のモデルリーディング
②表現豊かに読む指導 スラッシュリーディング指導 場面を想像させる指導	JTE・JETと生徒1名が対面で実施	②授業内で、生徒と1対1の音読練習を行い、フィードバックを実施
③JTE・JETが使用したルーブリック評価を生徒と共有し、振り返りを実施	②JTE・JETが同一のルーブリックにて評価	
④次回の目標を観点別に生徒が設定		

(2) 伝える【プレゼンテーション】目標：グラフを使って情報を正しく伝えることができる。

授業内の特徴的な取組	パフォーマンステスト概要	JET の活用
①グラフの描写に係る表現を指導	①各チーム8分 (1人持ち時間1分、質問3分、入替1分)	①グラフ描写における語彙、表現また描写方法の指導補佐
②4人1グループで、世界で起こっている紛争等に関するグラフを調査し、そのグラフの推移、読み取れること、「高校生の自分たちができること」を協議	教室にて、発表形式で実施	②授業内におけるデモンストレーション
③授業内で「ワールドカフェ」形式でリハーサル実施	②発表内容 グループ内で一人一人が発表の役割(概要、読み取り、提言等)をもち、グループにて発表を実施	③発表へのフィードバック
④他のグループやJETからのフィードバックを受け、グループで原稿を校正		④ルーブリック作成補助・評価補助
⑤自己評価及び相互評価	③ルーブリックにて評価	

(3) やり取り【ディベート】目標：相手の意見を理解し、即興で意見を伝え合うことができる。

授業内の特徴的な取組	パフォーマンステスト概要	JET の活用
①身近なテーマでの生徒同士の意見交換 (“Winter or Summer” など)	①2人又は3人のチームを作り、賛成・反対の立場を事前に指示	①ディベート原稿用ワークシート作成補助
②ディベートの論題を生徒間で提案、協議 (論題の大テーマは教員で設定。例：修学旅行 論題決定例：“Should we go abroad as a school trip?”)	②2つのチームを教室の前で対面させ、ディベート対戦 (1ゲーム約15分)	②反駁のデモンストレーション
③事実や根拠の収集方法の指導	③事前に示したルーブリックにて評価	③原稿英文チェック
④本番に向けてのミニディベート実施		④ディベートの進行(ファシリテーター)
⑤自己評価及び相互評価		⑤ルーブリック作成補助・評価補助

Ⅲ 成果

1 3年間のパフォーマンステスト計画の作成について

委員の所属校の多くは、担任団の英語科の教員が中心となりその学年の年間計画を作成しており、学年間のパフォーマンステストへの取組の差が大きかったが、「3年間のパフォーマンステスト計画の作成ステップ例」を作成に、3年間の計画を検討することができた。

生徒の「使える英語力」育成に向け、共通理解が図られ、パフォーマンステストを授業の一環として行い、生徒にフィードバックしながら継続していく道筋が立てられ、教員からも肯定的な意見があった。

2 「話すこと」に関するパフォーマンステストを終えた生徒の声

- ・「音読テストの評価項目を事前に共有した上で授業があるので、やる気が出て結果的に読む力が上がったと思う。」(音読)
- ・「人前で話すことへの苦手意識がなくなった。」(伝える)
- ・「話す活動を通じて、頭では理解しているが、アウトプットができないことが多々あることを把握できた。更に自分のスピーキング力を伸ばしたいので、話すことの活動に一層積極的に取り組んでいきたい。」(伝える)
- ・「他の人の英語を真剣に聞き取り、簡単にまとめる力が養えた。」(やり取りする)
- ・「相手の話を聞いて、反論するために即興で英文を作ることが得意になった。」(やり取りする)

3 委員の所属校における外部4技能試験の結果より

- ・委員の所属校の1年生の英検2級の合格者が13%(第1回)から37%(第2回)に伸びた。

Ⅳ 課題

- 3年間のパフォーマンステストの取組を、観点別学習状況の評価に適切に反映させるためには更なる研究や分析が必要である。
- 「使える英語力」を3年間で計画的に育成するという観点から、今後も継続的にパフォーマンステストを実施し、生徒の変容を見ていく必要がある。
- 「使える英語力」の育成に当たり、他教科で同じテーマを扱う時期を考慮するなど、カリキュラム・マネジメントの視点をもつことで、更に学びを深めたり、実践的な英語力を身に付けたりすることができるため、学校全体で教科等横断的な取組を実践することも大切にしたい。

委員名簿

都立飛鳥高等学校	校長	堀江 敏彦
都立紅葉川高等学校	主任教諭	山中 悠香
都立小平高等学校	主任教諭	大石 賢
都立八王子桑志高等学校	主任教諭	俵 元希
都立戸山高等学校	主任教諭	池岡 正基
都立北園高等学校	主任教諭	嘉屋 理恵
都立文京高等学校	主任教諭	山下 朋恵
都立片倉高等学校	主任教諭	岩本 眞和

担当 グローバル人材育成部国際交流教育課 統括指導主事 田中 春子